

ご挨拶



「天空の町」の公演をご支援いただきありがとうございます。
このオペラは、歌劇を楽しみながら、滋賀県が生んだ伊庭貞剛の生涯を通して環境保護の大切さを考えるために企画されました。

お年寄りや子供たち、障害のある方たちも参加して、共に生きる平和な町づくりを目指します。皆様のおいでお待ちしております。

歌劇「天空の町」を観る滋賀市民の会
会長 徳川 輝尚



2014年の5月にびわ湖ホールで上演された歌劇「天空の町」を、湖西地域のみなさんのご努力で高島市のガリバーホールで再び観ることができるようになり、大変うれしく思います。

地球規模での環境破壊が懸念される昨今、明治の時代に「企業経営と環境再生」を見事に両立させた郷土の偉人「伊庭貞剛」の生き様にふれながら、現代の生きる私たちはどう行動するべきか、一緒に考えてみませんか。

歌劇「天空の町」を観る滋賀市民の会
呼びかけ人代表 國松 善次

歌劇「天空の町」～別子銅山と伊庭貞剛～

石多エドワード 台本・作曲

あらすじ

舞台は緑が豊かに広がる四国の別子山。どこからともなくやってきた旅人と森の生き物との対話から物語は始まる。この山は元禄時代に銅が発見され、明治になってからは広瀬幸平らの努力で大いに栄えたが、大規模な開発で森の木はほとんど伐られ、西洋式の精錬所ができてからは亜硫酸ガスによる煙害も深刻化。荒れ果てた禿山になってしまっていた・・・。

そこに現れたのがこの歌劇の主人公、伊庭貞剛。

鉱夫や農民の苦しみを目の当たりにして、彼らと誠心誠意向かい合い、なんとかして緑の山に戻そうと、あらゆる努力をしてゆく。そして、やっと解決の道が見え、心ならずも奢りかけてしまった時、心の師でもある峩山和尚から、「世の中、真面目にみてな」と、どこまでも謙虚であることを教え諭され、涙ながらに峩山に感謝する。

最後に舞台は再び緑の別子山に戻り、旅人と森の生き物たちが自然とともにあることの喜びを語り合い、人間と自然との共生を高らかに歌い上げて幕となる。